

ASC 杯フットサル大会競技規則

はじめに

本大会では、基本的に（財）日本サッカー協会の定めるフットサル競技規則（以下 JFA 規則）に準じて行うが、以下の項目は、運営上に理由により、JFA 規則より優先的に適用される規則である。また、本大会における最終的な決定権は運営本部が持つ。

1. 試合時間

予選リーグは、7分ハーフ（前半7分・ハーフタイム1分・後半7分）

決勝トーナメントは、10分ハーフ（前半10分・ハーフタイム2分・後半10分）

で行う。タイムアウト、ロスタイムは設けない。計時は主審が行う。

2. 競技者数

1チーム5人以下（そのうち1人はゴールキーパー）、交代要員は最大7名（12名まで登録可能）とする。

ケガおよび反則による退場処分などで、いずれかのチームの競技者の数が3人未満（ゴールキーパーを含む）になった場合、対戦する双方の了解がなければ3人未満になったチームを0-4の負け試合とする。

ゴールキーパーの交代は、アウトオブプレーの時、審判に申し出て承認されれば交代できる。

3. 審判制度

本大会では、運営本部の指定したチームより1名ずつ選出する持ち回り方式で行う。主審と副審をおき、第3審判の制度は適用しない。

4. その他

シンガード（すねあて）を着用していない選手は試合に出場できない。

5ファウルルールは適用しない。

直接フリーキックになる反則および、警告処分の累積は行わない。

退場処分を下された選手は、それ以降の試合に参加できない。

メガネおよび、ピアス・ネックレス・指輪など、他人に怪我をさせる恐れのあるものの着用は禁止する。

予選リーグの順位決定

1. 勝ち点制

勝ち……………3点 引き分け…1点 負け……………0点

2. 勝ち点と同じ場合は、以下の優先順位で順位を決定する

（1）得失点差 （2）総得点数 （3）直接対決の結果 （4）抽選

ASC 杯フットサル大会競技規則

決勝トーナメントでの勝敗決定（同点の場合）

延長戦は行わず、3人ずつのPK戦（4人目以降はサドンデス）により決定する。

ただし、決勝戦に限り1分間の休憩の後、前後半なしゴールデンゴール方式で5分間の延長戦を行い、それでも勝敗が決まらない場合は前述のPK戦にて決定する。

フットサルにおける、基本的なルール

ここでは、よく質問を受ける項目のみについて解説します。JFA 規則については各自で確認をしておいてください。

1. 得点について

競技規則に別に規定されている場合を除いて、両ゴールポストの間とクロスバー下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、得点となる。ただし、ゴールキーパーを含む攻撃側の競技者が手や腕を用いて、ボールを投げ、運び、あるいは意図的に押し進めた場合を除く（JFA 規則第11条「得点の方法」）

※ゴールラインの上にわずかでもボールの一部がかかっている場合、得点にはならないので、審判をする際は、特に注意をする。同様にタッチライン際でもボールが完全に出たかどうかの判断に注意をする。

2. キックイン

ボールを、タッチライン上に静止させる。

競技者はボールをキックするとき、いずれか一方の足をタッチライン上、またはタッチラインの外のピッチ面につける。

※審判は、ボールが静止していること、軸足がラインを越えていないことに注意をする。違反があったときは相手側のキックインとなる。キックインから直接得点することはできない。キックインはキーパーにもどうしても良い。

3. ゴールクリアランス

攻撃側のチームの競技者が最後にボールに触れて、地上、空中を問わず、ボールの全体がゴールラインを越え、第11条による得点とならなかった場合に守備側のチームに与えられる。

※サッカーでいうゴールキック。ゴールクリアランスを行う際、ボールがペナルティエリアの外に投げ出されてからインプレーとなる。ゴールクリアランスから直接得点することはできない。ゴールクリアランスでハーフラインを越えても良い。

ASC 杯フットサル大会競技規則

4. バックパス

フットサルでは、ゴールキーパーが関与したボールがハーフラインを越えるか、相手チームの競技者に触れる前にゴールキーパーへ戻すことができない。

※手でも足でも触れることはできず、触れた場合は、相手チームにその場からの間接フリーキックが与えられる。

5. 4 秒ルール

キックイン・ゴールクリアランス・コーナーキック・フリーキックを行える状態になってから、4 秒以内に行わなかった場合、もしくは、ゴールキーパーが自陣内で 4 秒以上ボールを保持した場合の違反である。

※キックインを 4 秒以内に行わなかった場合、相手のキックインになる。ゴールクリアランス・コーナーキック・フリーキックを 4 秒以内に行わなかった場合、相手の間接フリーキックとなる。ゴールキーパーは相手陣内では 4 秒の制限は無い。

6. ペナルティエリア内での発生した間接フリーキック

例えば、ペナルティエリア内でバックパスの違反が起こったときは、ゴールキーパーが触れた場所に最も近いペナルティライン上からの間接フリーキックとなる。

7. 壁の距離

フリーキック・キックイン・コーナーキック・ペナルティキックは守備側の選手はボールから 5m 以上離れなければならない。

※規定の距離を守らなかった場合、審判の 5m の指示を無視して近くによると警告処分になるので注意。

8. スライディング

フットサルでは、スライディングタックルは禁止されているが、自陣ペナルティエリア内においてはゴールキーパーのみスライディングが認められている。ただし、無謀に、あるいは過剰な力で犯した場合は除く。

※こぼれ球に対しては、スライディングしても構わない。

9. 競技者の交代

試合中に行われる交代の回数は、制限されない。交代で退いた競技者は交代要員となって他の競技者と交代してピッチに戻ることができる。ただし、自分のチームの交代ゾーンで出入をし、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出るまでは交代要員はピッチに入る事ができない。

※これに違反すると警告処分になるので注意。